

## だれがリーダーに

みんなが楽しみにしている蒲刈かまがりでの野外活動に向け準備が始まった。

「リーダーになりたい人、いませんか？」

担任の先生がおっしゃった。私は

(リーダーか、ちよつとめんどうだな。)

と思った。リーダーは、みんなに指示を出したり、みんなの意見をくみ取って班をまとめたりする係の中でも中心になる大切な役だ。案の定、だれも立候補しない。先生の言葉が続いた。

「えっ、リーダーをやってみようと思う人、いないの？リ

ーダーになって自分たちの活動を作るの楽しみじゃないの？リーダーがいないとグループも決められないし、キャンドルサービスも進

められないよ。」

みんなざわざわしている。「おまえやれよ。」「いやよ。」あちこちで無責任な声が聞こえてくる。リーダーが必要なことはみんな分かっている。とつ然、けんじ君が言った。

「めぐみさん、リーダーやったら？」

「おっ、賛成！」

はく手が起こる。

「ええっ、いやよ。」

そりゃあ、今まで何回かリーダーをやったことはある。しかし、野外活動のリーダーは初めてのことだ。それにみんな、今までだって、ちよつと用をたのんでも「私の仕事じゃない。」と言って、なかなか協力してくれず、結局自分がやったこともある。リーダーってしんどい。先生が、

「みなさん、せいせんする以上は自分も協力しなきゃいけないことは、分かっているわよね。一人一人が自分の責任を果たさなきゃいけないし。でもそうやって一人一人が協力してみんながまとまってこそ、楽しい野外活動が作れるの。」確かにみんなをまとめて、うまくいったときはなんともいえない達成感と満足

感がある。なやんでいるうちに、けんじ君たちから

「めぐみさん、たのむよ。」

と言われた。たのまれるとなかなかいやとは言えない。

「じゃあ、みんなも協力してね。」

私はしぶしぶリーダーを引き受けることになった。

班も決まり、各係の仕事も順調に進んでいく。初めは心配していたが、みんなも協力してくれ、だんだん野外活動が楽しみになっていた。そんな中、キャンドルサービスでのスタンプを何にするかを決めなくてはいけなかった。

「ねえ、スタンプ何にする？早く決めて練習しないと間に合わないよ……。劇、

しない？『五年四組の一日』なんてどう？」

「いやだよ。はずかしい。」

「じゃあ、歌いながらおどるのは？」



「どんな歌？私テープかける係ならするわ。」

みんな人任せでなかなか決まらない。私はだんだんいらして腹が立ってきた。みんな協力するって言ったくせに、何よ、私だってはずかしいしんどいわよ。とうとう私は

「もう知らない！みんな自分勝手なことばかり言ってる。私リーダーやめる！」  
と言って教室を飛び出した。

どれだけ時間がたったのだろう。教室の前まで帰ってみると、けんじ君が模造紙を片手に教室を出たり入ったりしている。

「これじゃあ、字が小さくて、よく分からないよ。」

「絵はともかく、字が見えにくいよ、消してやり直しだ。」

けんじ君の声が聞こえた。夕食の作り方の説明表だ。けんじ君とだいすけ君は食事係だったなあ……。そういえば、あき子さんたちも、この前の放課後、残って「はじめの言葉」を考えていたなあ……。みんなそがしそくに動いている。みんなはスタンツのこと気にならないのだろうか。私は何も言わず学校を後にした。

家に帰ってからもなんとなく落ち着かない。この先のことを考えると不安になる。スタンツ、どうなるのかしら……。夕食の時、お父さんが

「もうすぐ野活だなあ、楽しみだなあ、お父さんもいまだに忘れられないよ。出し物で、お父さんが担任の女の先生の役をして劇をしたんだけど、これが大受けで、いまだにみんなが集まるとあの話になるんだよ。」

と、楽しそうに言った。二〇年以上も前のことなのに、よほど楽しかったのだろう。私はちよつと不思議でうらやましくもなった。

「お父さん、はずかしくなかったの？それに、みんなで劇をやるうってすぐ決まったの？」

「いやあ、なかなか決まらなかったよ。みんな、ああだこうだって言うばかりでなかなか決まらないし、集まってもおしゃべりばかりで、でもだれかが口火を切って進めていかないとできないだろ？みんなで何かをする場合は、だれかが中心になって進めていかなきゃまとまらないよ。それにみんなだって、楽しくしたいっていう共通の思いがあったしな。」

電話のベルが鳴った。

「めぐみさん、今日のごめんね。明日もう一度みんなまで話そうよ。」

あき子さんからだった。

（あき子さんも心配してくれていたんだ。）

「ごめんね。先に帰って……。」

「こつちこそごめんね。人任せにして。なかなかいい案が浮かばなくて……。」

（みんなも、同じ思いをしていたんだ……。）

みんなの顔が思い浮かんだ。みんなそれぞれ頑張っているんだ。もう一度みんな話合ってみよう。電話を切った後、私はランドセルの中から「野外活動のしおり」を出して見直し始めた。

